



実際にストリンググラフィを演奏する園児

2月13日 【上中島こども園】

絹糸が奏でるやさしい音色 ストリンググラフィコンサート

絹糸と紙コップでできた楽器「ストリンググラフィ」を使ったコンサートが開催され、上中島こども園、神愛こども園、中妻子供の家保育園の3園の園児たちが演奏を楽しみました。糸を通して響く不思議な音色に園児たちは目を輝かせ、会場はやさしい音色に包まれました。上中島こども園の小笠原充南ちゃんは「とても楽しかった。小さな世界の歌が1番好き」とはにかみました。



手づくり商品を販売しながら会話を楽しむ子どもたち

2月15日 【釜石市民ホールTETTO】

「やってみたい」ことを叶える 子どもたちが主役！かまっこまつり

「主役は子どもたち！」を合言葉にしたかまっこまつりが開かれ、未就学児から中学生まで約40人の子どもスタッフが企画・運営に挑戦しました。手作り雑貨やゲームの店を出し「いらっしゃいませ」と元気な声で約300人の来場者を迎え、交流を楽しみました。働く体験や仮想通貨を使った買い物で社会の仕組みに触れ、創意工夫や仲間との協力を深める一日となりました。



大石先生の食のお話に関心する参加者の皆さん

2月15日 【イオンタウンホール】

かまいしの食文化を考えよう 食文化&座談会を開催

釜石の食文化を考える講演会と座談会が開催され、参加者は講演を熱心に聞きました。講師を務めた文化財調査官の大石和男さんは「当たり前が面白い」と語り、私たちにとっての当たり前が他の地域では特別であることを紹介しました。座談会では地元の食に精通する参加者が活発に意見を交わし、釜石の食文化の奥深さや魅力を改めて見つめ直す有意義な機会となりました。



学んだ日本語でスピーチを行う留学生ら

2月26日 【釜石市民ホールTETTO】

学びの成果を発表 留学生は日本語でスピーチ

3月に卒業を控えた釜石市国際外語大学の1期生が卒業研究発表会で学びの成果を発表しました。日本語学科のネパール人留学生カトワル・スザンさんは「はじめは戸惑うこともあったが、違いを知ることは大切。おじぎ、礼儀、ごみを分けること、多くを知った。責任感、思いやりの気持ちも学んだ。大切にしていきたい」と話し、笑顔を見せました。

2月1日 【日蓮宗 仙寿院】

「津波時は高台へ」を心に刻む 第13回新春韋駄天競走

震災の教訓を未来へ伝える「新春韋駄天競走」が今年も開催され、2歳から81歳まで計122人が急坂を駆け上がりました。競走は「津波時は高台へ」と迅速な避難行動の啓発が目的で、親子で手をつないで挑戦する姿や中高生の力強い走りが見られました。参加者は競走後に命を守る行動の大切さを改めて心に刻み、震災の記憶と教訓を次世代に伝える思いを強めました。



震災後に生まれた小学生も参加し急坂を駆け上がる

2月3日 【市役所】

防災の学びを全国へ 釜石小「ぼうさい甲子園」で優秀賞

釜石小学校は、家庭や地域と連携しながら続けてきた避難訓練や安全マップづくりなどの防災の実践的な取り組みが高く評価され「ぼうさい甲子園」で優秀賞を受賞しました。児童は表彰式で活動内容を発表し、防災の学びを堂々と伝えました。釜石小6年の山崎 柊 団長は「防災の活動を6年間重ねてきた中での受賞なのでうれしい。後輩たちにもこの活動を引き継いでほしい」と話しました。



優秀賞の賞状や盾を見せながら受賞を報告する児童

2月8日 【釜石市民ホールTETTO】

次世代への継承 釜石市郷土芸能祭 9団体が熱い演舞

第27回釜石市郷土芸能祭が開かれ、市内の神楽や太神楽、虎舞、鹿踊り計8団体が出演した他、平泉町から1団体が出演し会場を盛り上げました。子どもたちや若い世代の演舞にも注目が集まり、地域の宝である郷土芸能の継承・担い手育成への思いを新たにす一日となりました。約千人の来場客が伝統の舞を楽しみ、祭りを通して次世代へつなぐ交流が深まりました。



特別出演した平泉町の「達谷窟毘沙門神楽」

2月8日 【釜石市民ホールTETTO】

オリジナル劇「ヒマワリの誓い」 艦砲射撃の記憶と平和の願いを伝える

釜石小学校6年生9人が、オリジナル劇「ヒマワリの誓い」を上演しました。劇は過去の艦砲射撃の記憶を題材に、戦争の愚かさや平和の大切さを伝える内容で、児童たちは体験者の話を聞きながら脚本づくりや演技に取り組みました。児童たちは観客約150人の前で堂々と披露し、劇づくりを通して学んだ平和への思いを地域で共有し、次世代に伝える気持ちを強めました。



艦砲射撃を題材にしたオリジナル劇を披露した釜石小6年生